

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 坂田
日 時	平成25年4月24日(水曜日)	開 議	午後 1 時 3 0 分
		閉 議	午後 2 時 3 0 分
出席委員	明田 酒井 苗村 竹田 藤本 眞継 立花 (西口欠席)		
事務局	阿久根副課長、坂田		
傍聴者	市民 1名	報道関係者 - 名	議員 - 名()

会 議 の 概 要

1 開議

2 行政視察について

< 明田委員長 >

行政視察について行程及び視察先の概要を事務局から説明させる。

< 事務局 >

行程及び視察先の概要説明。

< 明田委員長 >

行程の確認、何かあれば事務局まで連絡をお願いします。それでは視察先の調査事項について何項目かの意見を求める。

(1) 地域包括ケアについて (地域ケア会議のあり方について、地域ネットワークの構築について)

< 苗村委員 >

介護保険と大きく関わっており、介護保険料が24年度から4,300円になっている。全国平均からすればかなり低いので、どうやって低く抑えているかを聞きたい。ケアプラン相談会が大きな柱になっていると思われるので、ケアプラン相談会について詳しく聞きたい。第5期介護保険事業計画のなかで、国から総合支援事業を取り入れる方向が出されており対応を聞きたい。

< 眞継委員 >

竹田委員に確認するのですが、青梅市は地域ケア会議を見送りケアプラン相談会で事業を展開されているが、この線引きはどこにあるのか。

< 竹田委員 >

全く別のものだと想像する。地域ケア会議は当市も実施するということだが、現在は出来ていない。今までの地域ケア会議というのはネットワーク会議みたいなものであり、包括支援センターが民生委員・警察等に呼びかけて地域の問題点や支援策の情報共有の場所であった。それはネットワーク会議でケア会議ではない。ケア会議とは昨年と和光市を視察した内容であり、国は平成27年度からケア会議をするように求めており、当市も実施しようとするがそこまでいかない。ネットワーク会議が出来てないのでケア会議が出来ない。京都市もこれからどうしようと考えている。青梅市の一人が全国でケア会議をする推進委員研修会の研修委員なので先進的な事が聞けると思う。本市も昨年に研修を受けており、その時の講師であった。市民がデイサービスを使いたいと言った時、ケアプラン作成の一手手前で窓口相談会をされていると想像する。

< 眞継委員 >

今の話からすれば今後地域ケア会議にしていく前段階として、ケアプラン相談会というものが設置されていると思っていいか。

< 竹田委員 >

施設間協議会がケアプラン会議と考える。本来、国が言っているのは行政が示せということであり、和光市のように利用者が希望するデイサービスではなく、利用者にふさわしいサービスが受けられる手法を国は求めている。ただ今後はギャップが出てくると思われ、このケアプラン相談会がワンクッションおいているのかもしれない。その手法を聞きたい。

< 眞継委員 >

ケアプラン相談会という考え方を分かりやすく説明をいただいたうえで、実施されている中身や目指すべきところを説明していただけたらと思う。

< 立花委員 >

和光市の介護事業は利用者が多く採算が採れており、サービスのメニューも多い。田舎はメニューすらないのが介護保険の実態である。先進地の取組みが本市でできるのかは考えないといけない。本市の実態を共通認識しておかないと視察が生かせない。高齢者の要介護割合、サービス内容、包括支援センター設置状況、ニーズに応えられているのか、サービスは行き届いているのかを視察で聞きたい。サービスが増えれば保険料は上がる。青梅市はサービスメニューが多いにもかかわらず保険料は全国平均より低い。その工夫は何かについても聞きたい。本市の状況を認識しておかないと執行機関に提案は出来ない。以前提出された資料を基に学習をして視察に臨むべきだと思う。

< 苗村委員 >

青梅市は特養が24箇所ある。本市は5箇所と遥かに少ないが、施設を整備してきていることが、保険料の上昇につながっている一つの要因である。青梅市は特養のほかに、療養型の病院5箇所、老健2箇所があり、一定基盤整備されているなかで、なぜ保険料が抑えられているのかを聞きたい。また本市は包括支援センターを全て民間委託しているが、青梅市は3箇所のうち1箇所が直営である。民間委託との違いや直営の良さを聞きたい。

< 酒井副委員長 >

資料12頁～16頁にある本市のデータを事前に提出願う。

(2) 志木市市民病院について(経営健全化の取組みについて)

< 立花委員 >

赤字の原因や再生計画を立てた経過は説明をいただけたらと思うので、説明内容により質疑をしていけばいい。

< 眞継委員 >

民間への売却が決定したとあるが、その資料は。

< 事務局 >

資料はない。民間移譲が決定しているが、具体的な売却先は決まっていない。

< 苗村委員 >

5月1日から5月31日までが受付期間になっている。

< 立花委員 >

設立時の動機や民間移譲の住民合意、議会の対応を聞きたい。

< 藤本委員 >

民間移譲の住民合意、議会対応の内容を聞かせてもらいたい。

(3) ごみ減量化の取組み、効果について(プラスチックごみ分別収集について)

<立花委員>

沼津方式とは、分別を市がするのではなく住民がすることである。住民がどれだけ分別に参加・協力をして効果を挙げているか。ごみ処理の最も有効的な処理方法や、リスク問題、海の漂着ごみについても聞きたい。

<苗村委員>

生ごみのリサイクルはどうか。していなければ、していない理由や今後の方向性を聞きたい。

<酒井副委員長>

沼津市は本市より面積が小さいが人口は2倍である。それでも分別が上手くいくのは住民説明会にある。説明会の開き方や対象者など、どのようにしているのか聞きたい。

<眞継委員>

四日市市は事業者を巻き込んだやり方をしていた。事業者の取組みはどうか、リサイクル協力店などの取組みをされているのかを聞きたい。

<明田委員長>

意見を視察先に質問事項として送っておく。

3 その他

5月月例開催について

<明田委員長>

5月の月例開催をどうするか。

<酒井副委員長>

月例を開催してはどうか。昨日、議会報告会のチラシを千歳自治会に届けたとき、市の事業でさわやか教室をされていた。介護予防で元気な方を対象に毎週火曜日に10年間ずっとされており、毎回30名以上が来られている。大変優れているということもあり、他市からも視察に来られている。色々な所に視察に行くのもいいが、市内で良い成果を挙げているところを見に行ってはどうか。

<藤本委員>

視察で学んだことを本市にどう具現化していくか等の意見交換会をすればどうか。また南つつじヶ丘にも歌声喫茶があり毎回50人ぐらいでされているので、それも参考にされたい

<立花委員>

藤本委員の意見に賛成する。視察の総括を先にした方が良い。

<明田委員長>

報告書については議運で委員会でもまとめることも検討されている。そうなれば委員会のディスカッションが必要である。

<明田委員長>

次回の月例は6月24日から28日の間で視察の総括とする。

<全員了>

散会 ~ 14:30